

国際交流基金日本語国際センター 第16回海外日本語教育研究会

『Can-doに基づいた授業の組み立て

—JF日本語教育スタンダードを利用して—』

プロフィシエンシーを目指した授業の組み立て —その可能性と考え方—

生田守

国際交流基金日本語国際センター 専任講師

講演の目的

「日本語を使ってどんなことができるか」
プロフィシエンシーを目指した授業を組み立てる際、
JF日本語教育スタンダードがどのように利用できる
か、その可能性について考察する

- JF日本語教育スタンダードの基本的な考え方
- 学習目標の設定
- 授業の段階・流れに沿った学習活動(練習)の作成
- 学習成果の評価

2

「Proficiencyを目指した授業」とは

・学習者は、目標社会=文化において、
目標言語を用いて、うまく生活(機能)
できることを目標に、現実の場面・状況が
意識された練習により、ことばを学ぶ

・ことばを使って「どんなことができるよう
になるのか」を意識して学ぶ

3

Proficiency Oriented Instruction

—その考え方—

- 1 一連の状況下で目標言語を使う練習の機会が与えられるべき
 - 1.1 学習者が自分の言いたいことを表現できる
 - 1.2 学習者どうしのいきいきとしたやりとり
 - 1.3 ことばの創造的な練習
 - 1.4 授業に目標言語を自然にとりこむ
- 2 目標文化の中での人とのやりとりに必要なことばの機能を遂行できるような練習の機会が与えられるべき
- 3 ことばの正確さをのばす配慮
- 4 学習者の情意面への対応
動機付けや、緊張を招かない環境で練習できる機会の必要性
- 5 文化面での理解を様々な方法でとりいれ、学習者が目標言語社会でうまく生活できるようにする

・ Alice Omaggio Hadley (1993) "Teaching Language in Context-2nd edition"

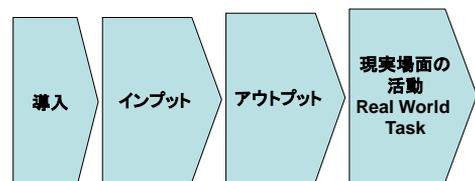
4

例えば、こんなコース・授業の場合

- ・対象者: 高校生(米国)
- ・レベル: 初級終了～中級程度
- ・コース全体の目標:
口頭能力(日常生活での簡単なやりとり)を伸ばしたい
- ・この授業での学習目標
 - ① 友達を好きな活動に招待する
 - ② 招待を受ける/断る

5

授業の段階・流れ



6

授業の段階(1)

導入

- 学習目標を学習者と共有する(どんなことができるようになるか)
- 説明より多様な例で示す
- ありそうな場面・文脈を通して意味を示す
- 学習者の類推する力を使う

インプット

- 理解可能なものを充分に与える
- 場面・文脈に関連したものを与える

アウトプット

- 正確さを重んじた練習を与える
- 学習者自身の意味を表わす機会を与える
- 学習者同士が話し合う機会を与える
- 情報の差を作る

7

授業の段階(2)

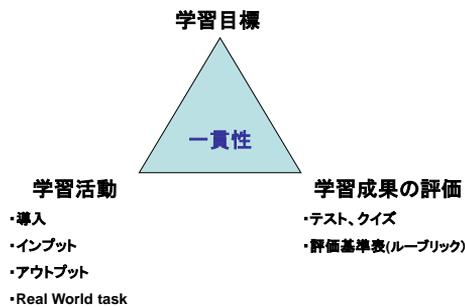
現実場面の活動 Real World Task

- 学習者は自分自身の意味を表出する
 - 学習者は互いに伝え合う
 - 学習者は自然に伝え合う
 - 場面・文脈は日常出会いそうなものを
 - 情報の差
 - 教師の話・訂正・説明は最小限に
- [意味あることば、やりとり、情報の差]

- RWT 1.友達を家に呼んで、好きな遊びをする
- RWT 2.交換留学生を学校のクラブに勧誘する

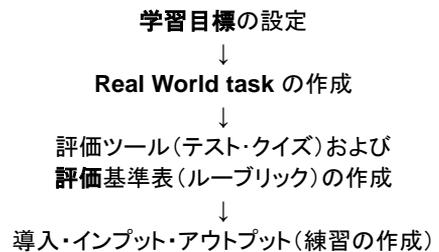
8

学習目標・学習活動・学習成果の評価



9

授業の設計



10

学習目標と評価の手引き

学習目標・評価を準備する段階で、
JF日本語教育スタンダードを手引きとして、
活用することはできないだろうか？

11

JF日本語教育スタンダードの紹介



JF日本語教育スタンダードとは
JFスタンダードの木
Can-doとそのレベル

12

1. JF日本語教育スタンダードとは

- JFスタンダードは、日本語の教え方、学び方、学習成果の評価のし方を考えるためのツール
- JFスタンダードを使うことによって、日本語で何がどれだけできるかという熟達度がわかる
- コースデザイン、教材開発、試験作成などにも活用できる

13

JF日本語教育スタンダードの理念

・「相互理解のための日本語」

世界中で日本語を通じて相互理解するために必要な能力

- 価値観の多様化、接触や交流が拡大する社会→ことばによるコミュニケーションの重要性の高まり

⇒ 課題遂行能力

言語を使って何がどのようにできるかという能力

異文化理解能力

他者の文化を理解し尊重する能力

14

JFスタンダードが参考にした ヨーロッパの取り組み

- JFスタンダードは、ヨーロッパの言語教育の基盤であるCEFRの考え方を基礎にしている
- CEFRとは、Common European Framework of Reference for languages: Learning, teaching, assessmentの略で、ヨーロッパの言語教育・学習の場で共有される枠組み
- CEFRは2001年に発表されて以来、ヨーロッパのみならず世界で広く注目され、各言語教育で実際に利用されている
- JFスタンダードを用いることにより、日本語の熟達度をCEFRに準じて知ることができる

15

2. 「JFスタンダードの木」(利用者ガイドブックpp.6-7)

言語によるコミュニケーションを、言語能力と言語活動の関係でとらえ、一本の木で表現したもの



言語能力を使って、さまざまな言語活動を行うことができる

言語によるコミュニケーションのためには基礎となる言語能力が必要

16

コミュニケーション言語活動 (communicative language activities)

- 受容的活動(受容) 読む・聞くなど
- 産出活動(産出) 一人で長く話す・書くなど
- 相互行為活動(やりとり) 会話や手紙のやりとりなど
- テキストに関する言語活動(テキスト)
受容と産出の両者を仲介する言語活動の例
- コミュニケーション方略(方略)
言語能力と言語活動をつなぐもの
受容・産出・やりとりの3つの言語活動ごとに例示

17

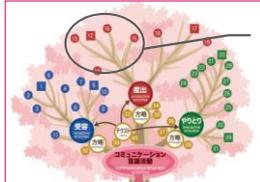
コミュニケーション言語能力 (communicative language competences)

- 言語構造的な能力 (linguistic competences)
語彙・文法・発音・文字・表記など
- 社会言語能力 (sociolinguistic competences)
相手との関係や場面に応じた適切さ
- 語用能力 (pragmatic competences)
ディスコース(談話)を組み立てたり、
言語使用の役割・目的を理解して使用

18

カテゴリー

1つ1つの枝や根で表された
言語能力の構成要素と言語活動
全部で53のカテゴリー



(例) 産出
話しことばに関するカテゴリー
【12話すこと全般】
【13経験や物語を語る】
【14論述する】
【15公共アナウンスをする】
【16講演やプレゼンテーションをする】

* カテゴリーは、包括的であるが、網羅的ではない

活動と能力の関係の例：産出(話す) 「講演やプレゼンテーションをする」の場合



活動と能力の関係の例：やりとり(話す) 「インフォーマルな場面でやりとりをする」の場合



JFスタンダードの木を活用すると

- ターゲットとなる学習者に必要な言語活動と、その言語活動を行うために必要な言語能力のカテゴリーはどれかを考えながら学習目標を検討できる
- 「JFスタンダードの木」の根や枝のどの部分を学習する必要があるかを考えることによって、学習目的に応じた学習方針を組み立てることができる

3. 「Can-do」とそのレベル (『利用者ガイドブック』p.8)

「Can-do」とは、日本語の熟達度を「～できる」という形式で示した文
CEFRの6つのレベル(A1,A2,B1,B2,C1,C2)に分けて提示

「講演やプレゼンテーションをする」という言語活動の「Can-do」の例



各レベルの「Can-do」を見ると、そのレベルの熟達度がどのようなものか、レベルが変わると何ができるようになるか理解することができる

- 6レベルの大まかなイメージをつかむには：CEFRの共通参照レベルの「全体的な尺度」

- 技能別のレベルを確認するには：CEFRの共通参照レベルの「自己評価表」



「全体的な尺度」は『利用者ガイドブック』のp.9、「自己評価表」はpp.70-71を参照

「Can-do」の種類

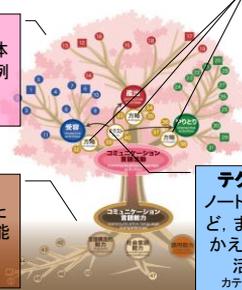
(『利用者ガイドブック』p.14)

活動Can-do
実社会で行う具体的な言語活動を例示
カテゴリ番号: 1-31

方略Can-do
言語活動を効果的に行うために言語能力をどのように活用したらよいか方略を例示
カテゴリ番号: 32-38

能力Can-do
言語活動を行うために必要な言語能力を例示
カテゴリ番号: 41-53

テキストCan-do
ノート取りや要約など、まとめたり言いかえたりする言語活動を例示
カテゴリ番号: 39,40



25

やってみよう



「Can-do」の6レベル(講演やプレゼンテーション)

自分の専門でよく知っている話題について、事前に用意された簡単なプレゼンテーションができる	身近な話題について、短い、練習済みの基本的なプレゼンテーションができる
話題について知識のない聴衆に対しても、自信を持ってはっきりと複雑な内容を口頭発表できる	非常に短い、繰り返された表現を読むことができる。例えば、話し手の紹介や乾杯の発声など
複雑な話題について、明確なきちんとした構造を持ったプレゼンテーションができる	事前に用意されたプレゼンテーションをはっきりと行うことができるある視点に賛成、反対の理由を挙げて、いくつかの選択肢の利点と不利な点を示すことができる

27

「Can-do」の6レベル(作文を書く)

家族、生活環境、学歴、現在または最近の仕事について、簡単な句や文を連ねて書くことができる	読者として想定した相手にふさわしい、自分の、しかも自然な文体で、自信を持って、明瞭かつ詳細な、的確な構成と展開を持つ描写文や創造的なテキストが書ける
自分が関心のあるさまざまな話題について、記述を明瞭、詳細に書くことができる	明瞭ですらすらと流れるように、そのジャンルに適切な文体で書き、読み手を完全に引き込むことができる
自分の関心事の身近な話題について、複雑でないが、詳しく記述することができる	自分自身や想像上の人々について、どこに住んでいるか、何をやる人なのかについて簡単な句や文を書くことができる

28

「Can-do」の記述内容

活動Can-do = 条件 + 話題・場面 + 対象 + 行動

活動Can-doの例【①テレビや映画を見る】

B1	話し方が比較的ゆっくりと、はっきりとしていれば	本人の関心ごとである話題について	インタビュー、短い講演、ニュース、レポートなど多くのテレビ番組の	内容をおおた理解できる
A2	映像が実際の様とんとを説明してくれるならば	出来事や事故を伝える	テレビのニュース番組の	要点がわかる

構造にもとづいて「Can-do」を理解することで、各カテゴリとレベルの記述の特徴がとらえやすくなる

29

みんなの「Can-do」サイトで提供中のCan-do

みんなのCan-doサイト

抽象的で、具体的な使用場面をイメージしにくい... 15のトピック

CEFR Can-do 活動 テキスト 方略 能力	JF Can-do 活動 日本語の使用場面を想定し日本語での具体的な言語活動を例示 A1, A2, B1を提供中 今後、B2を追加予定
--	--

493 Can-do 270 Can-do (2011年1月現在)

各現場で独自に作成した「Can-do」
MY Can-do

30

「Can-do」を活用することにより、

- 日本語の熟達度を客観的に把握できる
- 学習の目標を明確にすることができる
- 熟達度や目標を他の人や他の機関と共有できる

31

「Can-do」と学習目標・評価

- ①学習目標の設定に利用する
 - 特に…活動Can-do
 - 実社会での具体的な言語活動をイメージし、目標を明確化
- ②学習成果の評価に利用する
 - 特に…能力Can-do
 - 評価の観点を設定

32

JFスタンダードを活用した授業準備

1. 学習目標と「Can-do」
2. Real World Task作成と「コミュニケーション言語活動」
3. 評価と「コミュニケーション言語能力」

スライド5参照

33

1. 学習目標と「Can-do」

授業後、学習者はどんなことができるか。

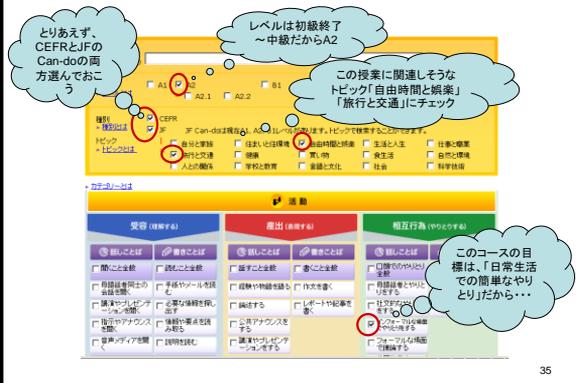
↓

活動(受容・産出・相互行為)と
カテゴリー(メールを読む、プレゼンテーションをする、
情報交換する、インタビューする etc.)

↓

MY Can-do作成

34



35

資料から選択した活動「Can-do」のリスト

種別	レベル	種類	言語活動	カテゴリー	Can-do本文 (日本語)
JF	A2	活動	やりとり	インフォーマルな場面でやりとりをする	友人と外出や旅行をするために、行き先や日程などについて、短い簡単な言葉で話し合うことができる。
CEFR	A2.1	活動	やりとり	インフォーマルな場面でやりとりをする	何をしたいか、どこへ行くのかを話して、会う約束をすることができる。
CEFR	A2.2	活動	やりとり	インフォーマルな場面でやりとりをする	旅や週末にすることを論議することができる。
CEFR	A2.2	活動	やりとり	インフォーマルな場面でやりとりをする	提案を行ったり、出された提案に対して反応できる。

36

目標設定(見直し)のためにMY Can-doを作る

たとえばこんなコースの場合...

- ・対象者: 高校生
- ・レベル: 初級終了～中級程度
- ・コース全体の目標:
口頭能力(日常生活での簡単なやりとり)を伸ばしたい

たとえばこんな目標記述がある

(例)パンフレットや雑誌を読んだ後、
晩や週末にすることを相談することができる

37

ステップ1 言語活動を確認する

活動Can-do = 条件 + 話題・場面 + 対象 + 行動

●対象と行動に着目

受容・産出・やりとりのどれなのかを明確にする

(例)の目標記述の中身

- (a)パンフレットや雑誌を読んで、理解することができる
- (b)晩や週末にすることを話すことができる

→(b)を選んで次のステップへ

受容
(読む)

一人では必ず「産出」?
他の人と会話をする「やりとり」?

38

ステップ2

言語活動のカテゴリーを確認する

活動Can-do = 条件 + 話題・場面 + 対象 + 行動

●話題・場面に着目

「話す」という言語活動の状況や場面を明確にする

- ◆一人の語り? 他の人とのやりとり?
- ◆相手は? 一人? 大勢?
- ◆どんな場面? 友人との打ち解けた会話? フォーマルな会場?

(b)晩や週末にすることを話すことができる

ここでは、友達とやりとりするようなインフォーマルな場面を想定
(やりとり【インフォーマルな場面でやりとりする】)

⇒ クラスメイトと、晩や週末についてすることを、
話し合い、約束をすることができる

39

ステップ3 レベルを確認する

活動Can-do = 条件 + 話題・場面 + 対象 + 行動

- 「どのぐらいできるのか」を明確にする
- レベルの特徴的な表現を「Can-do」の構造の4つの要素
に入れることで、どのレベルかを表わすことができる

ここでは、A2を目標レベルとして

「はっきりとゆっくりと、自分に直接向けられた発話ならば」
「簡単な言葉で(誘ったり、約束したりできる)」
という表現を利用

『利用者ガイドブック』参考資料3 活動Can-doのレベル別特徴一覧
(pp.74-79)を参照

40

MY Can-doの完成

すでにあつた目標記述を書きかえて作成した
MY Can-do:

はっきりとゆっくりと自分に直接向けられた話ならクラスメイトと、
晩や週末にすることについて、簡単な言葉で、誘ったり、約束を
することができる

レベル : A2
カテゴリー : やりとり【インフォーマルな場面でやりとり】
トピック : 自由時間と娯楽、旅行と交通

41

2. Real World Taskの作成と言語活動

言語活動のリストから、

1. どんなトピックで
2. どんな場面・状況で
3. どんなやりとり・表現が行われるのか

↓
どんな活動が適切か

↓
学習目標と照らし合わせて作成

42

最終タスク(RWT)

ロールカード(学習者言語による)

- (A)週末、あなたの好きな活動に友達を誘って下さい。予定を聞いて、もし、OKだったら、いつ、どこで、何をするかを決めて約束してください。
- (B)友達が来て、週末の予定を聞き、あなたを誘います。行くか行かないかを決めて答えてください。

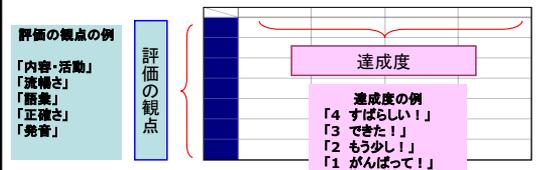
3. 評価と言語能力

言語能力を参考に評価基準を作成する

評価の観点		言語能力を参考に評価基準を作成する			
種別	レベル	種類	言語活用	カテゴリ	Can-do本文(日本語)
CEFR	A2	能力	言語構造的な能力	文法的正確さ	いくつかの単純な文法構造を正しく使うことができるが、依然として決まって犯す基本的な間違いがある—例えば、時制を混同したり、性・数・格などの一致を忘れたり
CEFR	A2	能力	言語構造的な能力	音素の把握	語の発音は時々、本人に繰り返しを頼まなければならないが、大体的に、発音は明らかに外国語訛りが見られるにもかかわらず、理解できる程度にははっきりしている
CEFR	A2.1	能力	言語構造的な能力	使用語彙領域	基本的なコミュニケーションの要求を満たすことができるだけの語彙を持っている。
CEFR	A2.1	能力	活用能力	話しことばの流暢さ(機能的な能力)	授業に話まったり、話し始めて言い進すことが目立って多いが、馴染みのある話題であれば、余り困難なく言いたいことを言葉に表現でき、短いやり取りを行うことができる

評価基準のフォーマット(例)

縦軸に評価の観点、横軸に4段階の達成度を配置した評価基準フォーマットを利用する



評価の観点	評価基準(例) (作成方法は『利用者ガイドブック』pp.57-68を参照のこと)			
	1 がんばって!	2 もう少し!	3 できた!	4 すばらしい!
内容・活動	相手のいうことがわからないか、どうしているかわからないかの理由で、非常に頻定的に誘ったり、約束しないことがある。	よく知っていること・相手なら、繰返すにより、クラスメートと、雑や約束にすることについて、決まったり、約束をすることができる。	はっきりとゆくりと自分と直接向けられた話ならクラスメートと、雑や約束にすることについて、簡単な言葉で、誘ったり、約束をすることができる。	苦労しないで、クラスメートと、雑や約束にすることについて、誘ったり、約束をすることができる。
正確さ	適切な語彙・表現を探すのに、非常に時間がかかりながらも、補われたコミュニケーションを行なうことができる。	適切な表現を探したりして、コミュニケーションを促進するために、多くの間があるが、非常に短い表現で、やりとりを行うことができる。	言葉に話まったり、話し始めて言い進すことができるが、馴染みのある話題であれば、余り困難なく言いたいことを言葉に表現でき、短いやり取りを行うことができる。	文法や語彙を正確に使用して、間があまり長い言い進すことがあるが、あまり困難なく、ある程度の長さのわかりやすい話をすることができる。
結果	コミュニケーションの要求を満たすには不十分であるが、非常に頻定的な言い間違いを持っている。	特定の具体的な状況に関して、基本的な単語や短いフレーズを不十分ながらも持っている。	基本的なコミュニケーションの要求を満たすことができるだけの語彙を持っている。	よく知っている場面や話題について、十分な話し合いをするための語彙を知っていて、使うことができる。
正確さ	単語を並べることによって、意思を伝えることができる。	学習者のレパートリーについて、本質的・体系的な単語や短いフレーズを使うことができる。	いくつかの単純な文法構造を正しく使うことができるが、依然として決まって犯す基本的な間違いがある。しかし、本人が何を言おうとしているのかはたいていの場合明らかである。	どんな話をするかはわかっているが、よく知っている文法や文型を正確に使うことができる。
発音	部分的に理解できる語が稀にはある。	非常に限られたレパートリーのみ、学習者自身の聞き取りやすいものから、本人の言葉を聞き取れている場面話であれば、多少努力すれば理解できる。	語の発音は時々、本人に繰り返しを頼まなければならないが、大体的に、発音は明らかに外国語訛りが見られるにもかかわらず、理解できる。短いやり取りを行うことができる。	発音をまちがえることはあるが、相手がよくわかるくらいに発音できる。

まとめ プロフィエンスーを目指した授業の設計とJFスタンダード

- ・レベル設定(確認)
6レベル(A1~C2)
- ・学習目標設定
MY Can-do—活動Can-do
- ・Real World Task 作成
活動Can-do(特にJF Can-do)
- ・評価方法
活動面(活動Can-do) + 言語面(能力Can-do)

学習目標・学習活動・学習成果の評価



49

参考文献

- 国際交流基金(2009)『JF日本語教育スタンダード 試行版』
国際交流基金(2010)『JF日本語教育スタンダード2010』
国際交流基金(2010)『JF日本語教育スタンダード2010 利用者ガイドブック』
- 島田徳子(2010)「国際交流基金レポート8 JF日本語教育スタンダード ～第2回 JF日本語教育スタンダードの内容と活用方法～」『日本語学』7月号, 明治書院
- 吉島茂・大橋理枝(訳・編), Council of Europe(著)(2008)『外国語教育Ⅱ—外国語の学習, 教授, 評価のためのヨーロッパ共通参照枠—』初版第2刷, 朝日出版社
- Alice Omaggio Hardley (2001) "Teaching Language in Context-3rd edition"

50

ご清聴ありがとうございました

JF日本語教育スタンダード ウェブサイト
<http://jfstandard.jp>

みんなの「Can-do」サイト
<http://jfstandard.jp/cando>

51